



## 1 はじめに

学校はどのような学びの場であるか。学校は、生徒にとって、様々な人とのかかわり等を通じて、楽しく学び、元気に明るく過ごせる場でなければならない。学校は、保護者にとって、安心してわが子を通わせ、多くの仲間とともに学べる場でなければならない。学校は、地域にとって、この地域の宝である生徒に対し、社会の一員として貢献できる力を育てる場でなければならない。わたしたちは、このような願いや期待を受け、学校のもつ公的使命を自覚しつつ、南成瀬中学校に在籍する生徒が、予測することすら難しい今後の変化の激しい社会を生き抜くことができるようにするための力の育成をめざすとともに、在籍する生徒、家庭や地域社会から信頼される学校を築いていくことが責務である。

その責務を果たすために、生徒の思いや願いをわたしたちのもつ教育観の中心に位置付け、「生徒にとってよりよい学びにつなげるために、私たちは何をすべきか・何ができるか」を常に考える教職員であってほしい。所属する一人一人が‘NANNARU-Professional Team’の一員として課題に向き合い解決することをおして生徒の成長の姿を共に喜び合う教職員であってほしい。

その教職員が学校教育を進めていくうえで大切にしていきたいキーワードとして「人間力」を挙げたい。非常に抽象的な表現だが、人間は、この世に生を受けることで一つの大きな特権を得る。人間だけがもち得るその特権とは、周りの人や環境に対して主体的に様々な関わり合いや働き掛けを行うことで、自分自身はもちろん、周りの人も成長させることができるということである。学校には、自分以外の人や環境とのかかわりが必ず存在し、この人間だけがもつ特権を成熟させることができる絶好の学びの場である。一方、人や環境とのかかわり合いは「諸刃の剣のようなもの」で、よりよい成長力につながる成果をもたらすものもあれば、自分や他者に害をなすものもある。だからこそ、力を発揮するのが私たち教職員である。真摯に生徒一人一人に向き合い、「今日の前にいる生徒のために・・・」という粘り強い信念をもって子どもたちの成長に向けた学びをしっかりと支えていくようにする。その積み重ねをつうじて、「自分も周りの人も大切にする人間力」が生徒一人一人に育まれると信じている。この力こそ、未来にはばたく生徒一人一人の礎になるものである。そのために、本校では、「共生・自立・貢献」という学校目標の実現に向けた総合的な学びをつうじて、「自分を大切にできる・人を大切にできる」生徒を育成することを重要なミッションとして教育活動を遂行していく。

## 【基本理念】 『人間力<sup>※1</sup>を育み、未来への一步を着実に踏み出せる<sup>※2</sup>学校』

※1：人間力とは、「自分も周りの人も大切にする力」を表す。その力を育むうえで大切にしたいのが「感謝」と「思いやり」である。この2つは、自分だけでなく他者の成長にもつながるものであり、持続可能な社会の形成者として必要とされる能力である。この能力を身に付けさせることをつうじて、無限の可能性を秘める生徒一人一人の基盤となる人間力を育成していく。

※2：本校の教育目標である「共生・自立・貢献」を達成させることをつうじて、一人一人が最大限に成長し、自信をもって次のステージに向かえる場にする。卒業時には、『ほかの誰でもない、自分だけの道を歩む』生徒の姿をめざす。

## 2 教育目標

共生 自立 貢献

## 3 めざす学校の姿

学校経営の中核をなすものである。ここに示すのは、生徒はもちろん、保護者や地域が望む「学校の姿」でもあるという認識をもち、その実現に向けて教職員が共通認識をもち、一人一人の実践はもちろん、学校組織としても具体的な取り組みを進めていくものとする。

### ★「みんなで4つの学びを創る」

⇒学校・生徒自身・家庭・地域が一体となって「生徒が主語」の学びの場を創る

#### ○生徒第一主義を貫く学びを創る

正しい人権感覚溢れる学習環境が築かれるとともに、生徒の思いに寄り添って考えることを厭わない

#### ○生徒が学ぶ喜びを実感できる学びを創る

生徒一人一人の個性や特質を把握し、よさを認め、褒め、伸ばす学びを創造する

#### ○生徒が安心して通うことができる学びを創る

常に一歩先を見て、生徒の安心・安全のための支援・配慮を心掛ける

#### ○生徒がしっかり伸びるよう校外の力も生かした学びを創る

生徒とともにある家族や地域と良好な関係を築き、もち得る教育力を最大限に生かす

## 4 めざす生徒の姿

- 自他の生命を尊重し、多様な価値観を認められる生徒 【共生】
- 自ら考え判断し、たくましく行動できる生徒 【自立】
- 社会性を身に付け、周囲の人と協働できる生徒 【貢献】
- 人を思いやり、人に感謝できる生徒 【共生・自立・貢献】

## 5 めざす教師の姿

- 生徒の人権を尊重し、生徒に寄り添い、生徒の自己実現を支える教師 【共生】
- 自身の指導力を伸ばすために、向上心をもち研鑽を積み重ねる教師 【自立】
- 豊かな人間性を持ち、すべての教育活動で連携・協力できる教師 【貢献】
- 生徒のよりよい学びのために創造力を発揮し、  
自身の職務に誇りをもてる教師 【共生・自立・貢献】

### 南成瀬中学校の教育活動についてのキーワード

- ◆ 共生・自立・貢献  
学校の教育目標。あらゆる教育活動はこれらの達成を目指す。
- ◆ NANNARU PRIDE  
生活指導のスローガン。「あたりまえ」と「手本」が合言葉。
- ◆ GCCチャレンジ!  
キャリア教育の「3つの柱」を表す。  
GLOBAL・CAREER・COMMUNITY の頭文字。
- ◆ なんなりティーチャープログラム  
キャリア教育で外部人材の活用を推進。  
なんなる生の「なりたい」を応援する先生を招く取組。



## 6 中期目標と方策

### (1) 共生

#### ①目標

自分だけでなく、他者の人生も豊かにしようとする心を持ち、多様性を認める等人権感覚を精錬する。

#### ②方策

- ア 人権感覚の確保こそ、学校・家庭・地域等の連携・協働による教育活動の基盤であるとする環境醸成
- イ 誰一人取り残さない特別支援教育推進による「共生社会の担い手」の育成
- ウ 考える道徳、議論する道徳の展開・一層の充実
- エ 組織的な対応を踏まえた個別最適な指導・支援
- オ 自他を尊重し、いじめを断固許さない思いやりのある態度の育成
- カ 「認め、励まし、褒め、支える」指導・支援
- キ 自尊感情、自己肯定感、自己有用感の育成
- ク 生徒主体の自主的・実践的な活動の充実による達成感や成就感の感得

### (2) 自立

#### ①目標

学び続ける力の育成に向け、生徒の学びを支える授業をとおして、将来に必要とされる確かな学力の定着を図る。

#### ②方策

- ア 学びの主体性を生徒に与える授業改善
- イ 生徒一人一人の学習定着状況の正確な把握と適切な指導・支援
- ウ 個別最適な学びと協働的な学びに関する実践事例の蓄積と汎用体制の確立
- エ 生徒自らが自身の健康や体力向上に主体的に考えることのできる取組の推進
- オ 論理的思考力や批判的思考力の向上
- カ 目的に応じたICT機器等の有効活用
- キ 学校図書館の機能発揮と有効活用
- ク 補充学習の継続的な実施

### (3) 貢献

#### ①目標

持続可能な社会の実現に向け、学校と地域等が連携した学びをとおして、自らの力を活かそうとする態度、社会参画の意識・勤労観を醸成する。

#### ②方策

- ア 地域社会・家庭に対する教育活動のねらい等の共通理解
- イ 地域運営学校としての地域と協働した教育活動の開発・充実
- ウ 地域貢献活動をはじめとした教育活動の創出
- エ 多様な教育力の利活用とキャリア教育の充実
- オ 多様な進路選択に向けた情報提供と指導・支援
- カ 危機回避能力の向上と自身を守る等の実践的な安全指導及び防災教育の充実
- キ 義務教育9年間を見通した継続的・系統的な教育活動
- ク 学校評価による地域・保護者との対話をつうじた学校運営の改善

## 7 今年度の学校経営の基本方針

### 【A：学校運営について】

#### (1) 学校教育目標の意図的・計画的指導

学校の教育目標である「共生・自立・貢献」を学校関係者への周知徹底を図るとともに、具体的な教育活動と関連付けて意図的に育成していく。

#### (2) コミュニティスクールとしての体制構築

コミュニティスクールの機能強化による学校と地域のより一層の連携に向けた研究を進め、社会に開かれた教育課程の実現を図る。

#### (3) 多様性の包摂に向けた学習環境づくり

生徒の発達にかかわる課題への理解及び不登校対応の在り方について全教職員で共通理解を図り、ユニバーサルデザインの視点を踏まえた学習環境の整備や個の現状に合わせた適切な支援を行う。

### 【B：学習指導について】

#### (1) 学び続ける力の育成を図る学習指導

教員の授業力向上を図るための取組を推奨するとともに、授業をデザインする8つの取組のうち、「見通しをもたせる導入」「価値ある対話の共有」「振り返りの設定」「ICTの活用」を重点に、生徒の学び続ける力の育成を図る。

#### (2) 人とのかかわりを大切にされた道德教育の推進

「特別な教科 道德」を中心に、学校の教育活動全体を通じて道德教育を推進し、様々な人と主体的にかかわることを通して、自分の人生だけでなく他者の人生も豊かにしていこうとする心を育む。

### 【C：生活指導・進路指導について】

#### (1) 多様性を認め合う学習環境づくり

学校の教育目標である「共生」を教育活動の基盤とし、全教職員が人権感覚を高める取組を実践するとともに、生徒一人一人の多様性を認め、感謝と思いやりをもって人と接する人権意識の高揚を図る指導を行う。

#### (2) 基本的な生活習慣の確立

「時間厳守」「あいさつ・返事の励行」「学校をきれいにする」等の全校一致の取組を推進することで学校生活の充実を図る。

#### (3) より実践的な安全教育の推進

避難訓練やセーフティ教室、「安全教育プログラム」等を有効に活用して、より実践的な内容を取り入れることにより、安全や防災、非行防止等への意識を高めさせる。

#### (4) キャリア教育の推進

キャリアデザイン、地域貢献活動を視点にし、職場体験学習、地域人材を活用した学び、地域学校協働活動等を計画的に実施し、キャリア教育のさらなる推進を図る。

### 【D：特別活動等について】

#### (1) 主体的に心身の健康増進を図る取組の推進

熱中症事故の未然防止を徹底し、様々な学習活動の場面で運動に親しませながら体力向上を図るとともに、特別活動や給食指導等においても健康促進について主体的に考え行動させることで、心身の健康の大切さに気付かせていく。

#### (2) 生徒の意欲を引き出す学校行事の実施

生徒の意欲を引き出し、主体的・積極的に取り組める魅力ある行事の実現に向け、各行事のねらいや目標の明確化とその達成に向けた意図的・計画的な指導の徹底を図る。

#### (3) 心理的安全性が確保された職場環境

「チームNANNARU」をスローガンに、「生徒の成長を実感し、楽しく教育活動を行うことができる職場環境づくり」をすすめる。

## 8 今年度の具体的取組

### ア 学校教育目標の見える化【A—(1)】

#### ① 意図的・計画的な啓発活動

全校朝会や学校行事等において、「共生・自立・貢献」と関連付けた指導を実施するとともに、学校だよりやホームページ等においても具体的な活動の様子を保護者、地域に向け積極的に発信する。

#### ② 教育活動と教育目標との関連化

それぞれの教育活動において、生徒に学校教育目標の「どのようなことを学ばせたいのか」を明確にし、指導計画の作成、実施及び振り返りを行う。

### イ コミュニティスクールとしての機能強化【A—(2)】

#### ① 学校運営協議会との連携

学校運営協議会の機能強化、地域学校協働活動の充実、部活動の地域連携の推進等の取組により持続可能なコミュニティスクールの運営モデルを構築することを通して、生徒の地域参画意識の醸成等を図る。

#### ② 地域との関わりの中での生徒の自己有用感の高揚

ボランティアコーディネーターや地域連携担当教員を中心に地域学校協働活動の充実を図り、生徒に地域活動に積極的に参画させることを通して、地域社会のつながりや支え合いの大切さを理解させ、地域社会の課題解決に貢献することにより自己実現を図らせる。

#### ③ 放課後学習教室「まなびや」・「未来塾」の充実

「まなびや」を放課後の居場所としての機能だけでなく学力向上のきっかけとなるような機能をもたせるとともに、定期考査前に集中して学習に取り組める「未来塾」を充実させる。

#### ④ 保護者や地域の声を反映した学校運営

土曜授業、学校公開、学校行事等、保護者や地域の方にできるだけ多く参観していただく機会を設けるとともに、アンケート、学校評価等の感想や意見をその後の学校運営に生かすようにする。

#### ⑤ 学校とPTAとの適切な連携

時代に合ったPTA組織として、学校にとっても保護者にとっても負担感なく、生徒の成長にとって有意義な活動ができるようにしていく。

#### ⑥ 部活動の地域連携

「NANNARU UNITED」と連携して地域の力で部活動が継続していける体制を維持し、多くの生徒が豊かな成長につながる活動になるような環境整備を継続して行う。

### ウ 学びの多様化支援の充実【A—(3)】

#### ① 不登校対応教員を中心とした組織的な対応

不登校対応教員を中心に関係諸機関等と連携を図りながら、「町田市版不登校のための対応マニュアル」を踏まえて不登校の未然防止、早期支援、長期化への対応を行う。

#### ② 不登校支援のための教職員の対応力の向上

不登校に関する校内研修を年1回以上行い、教職員の不登校への理解を深め、学校全体で適切な支援が行えるように学校全体の組織力を高める。

#### ③ 生徒一人一人に寄り添った登校支援

不登校巡回教員と連携し、教室への入りづらさを感じる生徒のためのステップルールの運営を充実させるとともに、タブレット端末の活用により不登校生徒の学習の機会を確保する。

### エ 特別支援教育の充実【A—(3)】

#### ① 校内委員会を中心とした組織的な対応

特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラーを中心に校内委員会の充実を図り、通常の学級とサポートルーム、ステップルームなどを有機的に連携させた校内支援体制を構築し、全ての教職員の共通理解のもと学校全体で協力して支援を行う。

#### ② 教職員の特別支援教育についての資質向上

町田市特別支援教育ハンドブックを活用した特別支援教育に関する校内研修会を年間3回以上実施し、合

理的配慮を踏まえた適切な指導や支援、ユニバーサルデザインの視点に基づいた指導力、学習環境の整備等について教職員の資質向上を図る。

### ③ 生徒一人一人の教育的ニーズへの対応

教職員が特別な支援を必要とする生徒についての理解を深め、一人一人の教育的ニーズを把握するとともに、障がい理解教育の充実や「心のバリアフリー」の推進、副籍制度を活用した交流及び共同学習を通して共生の心を育む

## オ 確かな学力の定着【B-(1)】

### ① 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善

全教科において、生徒が自ら課題を見付け学習活動を選択する「個別最適な学び」や、生徒が価値ある対話の共有によってお互いに学び合う「協働的な学び」の視点をもって授業改善に継続的に取り組み、「主体的・対話的で深い学びの実現」を図る。

### ② 学習に見通しをもたせる授業の工夫

各単元の計画や各授業の目標を提示して学習に見通しをもたせるとともに、生徒が自らの学習活動を振り返る場面を意図的に設定し、主体的に学習に取り組む態度を身に付けさせる。

### ③ タブレット端末を活用した授業実践

クラウド型学習支援コンテンツ、学習者用デジタル教科書等の使用を推進して個に応じた学びを充実させるとともに、タブレット端末の探求的・対話的・協働的な学習への活用を通して生徒の課題発見・解決能力や情報活用能力を育成し、情報モラルを身に付けさせる。

### ④ 少人数授業の効果的な活用

英語、数学では習熟度別少人数授業を行い、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、生徒の習熟度や様々な学習ニーズに対応した学習指導を行うことにより学力向上を目指す。

### ⑤ 英語力の向上のための指導の充実

英語教育では学習者用デジタル教科書を活用して「中学校外国語（英語）スタートカリキュラム」に沿った授業を行うとともに、第1学年の TOKYO GLOBAL GATEWAY での校外学習、第2学年のブリティッシュヒルズでの宿泊学習を通して英語に親しむ指導の充実を図る。また、第3学年までに実用英語技能検定3級を取得することを促す。

### ⑥ 継続的な基礎体力づくり

保健体育の授業を中心に体づくりのための補強運動を継続的に行い、走る・投げる・跳ぶ力や柔軟性等をバランスよく身に付けさせる。

### ⑦ 情報教育の充実

文部科学省の授業時数特例校の制度を活用し、第3学年の技術において35単位時間の授業時数を確保して外部機関と連携しながらプログラミング教育を推進することを通して、STEAM教育の視点に立った論理的思考力・創造的表現力の育成を図る。

### ⑧ 読書活動の充実

毎朝の読書活動を通して読書習慣を身に付けさせるとともに、国語の授業において書評についての意見交換を行い、読書に親しむ態度を育成する。また、学校図書館司書によるガイダンス機能を充実させ、各教科等における学校図書館の活用を推進する。

## カ 心を育てる教育の充実【B-(2)】

### ① 「考える道徳」「議論する道徳」の推進

学習指導要領の「特別の教科 道徳」の内容項目やねらいに基づき、教科書を主たる教材として、系統的・段階的に「考える道徳」「議論する道徳」を推進する。

### ② 道徳教育の指導法の工夫

道徳教育推進教師を中心に、問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れた指導法を工夫し、多様性を認める社会の一員としての道徳性や自己肯定感を高める。

### ③ 規範意識等の形成を通じた自尊感情の育成

規範意識・公共心を高める指導や生命を尊重する態度を育成する指導を行うとともに、生徒の成長を積極

的に認め励ましていくことで自尊感情を高めさせる。

#### ④ いじめ防止に向けた道徳教育の充実

「いじめに関する授業」をふれあい月間を中心に年間3回以上実施する。また、道徳授業地区公開講座を行い、保護者・地域と連携した道徳教育の充実を図る。

### キ 一人一人に寄り添った生活指導【C-(1)】

#### ① 生徒との信頼関係を基盤とした生活指導

教職員が生徒の人権を尊重し生徒理解を深めることにより教職員と生徒との信頼関係を築くとともに、命の大切さの指導を最優先にすることを生活指導の基盤とする。

#### ② 組織的、系統的な生活指導の徹底

生徒への指導や保護者への連絡はできる限り複数で行い、「迅速・的確・誠実」な対応を徹底して、一貫性のある生活指導を心掛ける。

#### ③ 関係諸機関との連携

SC、SSW、町田市教育委員会、子ども家庭支援課、児童相談所、警察、民生児童委員等と連携し、生徒一人一人に最適な対応を行う。

#### ④ いじめを許さない土壌づくり

いじめは絶対に許さないという土壌をつくるため、朝会、学年集会、学級活動等、日常のあらゆる場面で生徒に働きかけを行うとともに、生徒会を中心に生徒の自治意識を高める。

#### ⑤ より深い生徒理解に向けた取組の推進

二者面談、三者面談、心のアンケート等の機会を活用して生徒理解に努め、学校いじめ対応チームを中心とした迅速かつ組織的な取組を推進する。

### ク 本校独自の取り組みによる基本的な生活習慣の確立【C-(2)】

#### ① NANNARU PRIDE

あいさつの励行、時間厳守、適切な言葉遣い、整えられた身だしなみを「NANNARU PRIDE」というスローガンのもとに徹底し、生徒の基本的な生活習慣を確立させる。

### ケ 実践的な防災教育等の実施【C-(3)】

#### ① 災害や非常事態への備え

「学校危機管理マニュアル」を踏まえ、地震、火災、浸水及び土砂災害、Jアラート発令時を想定した避難訓練、引き渡し訓練等を実施し、自らの身の安全を確保するための行動を迅速に取る力を身に付けさせる。

#### ② 最新の動向を踏まえた防災・安全教育の実施

「学校の危機管理マニュアル作成の手引」等も参考にし、地域の実態及び最新の動向を取り入れた防災・安全教育等を柔軟かつ計画的に実施していく。

### コ キャリア教育の充実・発展【C-(4)】

#### ① 社会的自立に向けたキャリア教育

小中一貫町田っ子カリキュラム「キャリア教育」(改訂版)に基づき、発達段階を踏まえて系統的・計画的にキャリア教育を実施するとともに、キャリアパスポート(電子版)の活用により、社会的自立に向けて必要となる能力や態度を育成する。

#### ② GCCチャレンジ

「国際理解教育」「キャリアデザイン」「地域貢献活動」を3本の柱とし、GLOBAL、CAREER、COMMUNITYを表す「GCCチャレンジ!」として人権尊重、異文化理解、社会貢献等への課題を生徒自らが見つけ、他者と協働して解決を図るための体験的・探究的な学習を充実させる。

#### ③ 3年間を見通したキャリア教育

課題設定、情報収集、調査方法、まとめ・発表等について3年間を見通した指導を行い、生徒が自身の成長を感じとれるような学習活動を設定することを通して、実際の社会生活で活用できる思考力、判断力、表現力を養う。

④ 「自己理解・自己管理能力」の育成に重点を置いたキャリア教育

キャリア教育の資質・能力として「自己理解・自己管理能力」の育成に重点を置き、職業的自立に向けた能力や態度の育成を図るため、職業調べ、職場体験、金融教育、起業家教育、M E S E等の活動を充実させる。

⑤ 外部人材を積極的に活用したキャリア教育

「なんなる中生の『なりたい』を応援するプログラム」(なんなりティーチャープログラム)として外部人材の活用を積極的に行い、キャリアについての意識をより身近なものとして捉えさせる学習活動を通して、よりよい社会を創るために自分自身にはどのような貢献ができるのかを考えさせ、自らの生き方を見つめさせる。

⑥ キャリア教育としての学校行事の充実

第1学年の TOKYO GLOBAL GATEWAY や鎌倉への校外学習、第2学年のブリティッシュヒルズでの宿泊学習や職場体験、第3学年の修学旅行等の体験学習を通して、社会の中で自立的に生きる力を身に付けさせる。

サ 健康・体力増進の取り組み【D-(1)】

① 運動に親しむ機会の充実

学校行事、昼休みの外遊び、部活動等、教育活動全体を通して運動に親しませる。特に体育祭に向けた取組の中で、集団で行う運動の楽しさを味わわせる。

② 委員会活動を中心とした健康増進への取組

委員会活動を中心として健康の大切さについての意識を高める取組を行い、生徒自らが自身の健康について主体的に考える機会を設定する。

シ 生徒主体の特別活動等の充実【D-(2)】

① 学級活動の充実を通じた自己肯定感の育成

学級活動において年2回のhyper-QUを全学級で実施し、教員と生徒、生徒相互のより深い人間関係を形成する活動を充実させ、集団内での役割と責任の大切さを自覚させ、充実感や自己肯定感を高めさせる。

② 生徒の自主性、主体性を育てる集団的活動

生徒が主体となって学校行事に取り組みせるとともに、上級生が下級生を統率する機会を意図的に設けることで、人間関係の形成や望ましい集団の在り方を考えて実行する自主性を育てる。

ス 教職員が働きやすい環境づくりの推進【D-(3)】

① 定時退勤日の設定

各教職員が週1日程度の定時退勤日を設定し、勤務時間内に集中して業務にあたり、仕事の質的向上を目指す。残業時間については月50時間を超えないように指導し、月80時間を超えないように徹底する。

② 生徒の学びを豊かにする視点での業務の削減

生徒の学びを豊かにする視点に立って、形式的な業務や労多くして実り少ない活動は前例や慣習にとらわれずに削減する。

③ 部活動ガイドラインの遵守

部活動は平日に1日、土日に1日以上活動しない日を設定し、生徒にも教員にも過度な負担をかけず、ゆとりをもった生活を営めるようにする。

④ 風通しのよい職場環境の維持

教職員同士で相談しやすい雰囲気を醸成し、常に助け合いや協力の精神をもって職務にあたるようにする。

⑤ 研修への主体的な取り組み

教職員が主体的に企画・運営する校内研修を実施するとともに、指導教諭の模範授業への参加等を促し、教職員自らが自己の課題の解決に向けた取組を推進する。

⑥ 新しいことに挑戦する精神

教職員が進取の気性をもつことを奨励し、積極的に新しいことに取り組んでいこうとする姿勢を大切にしてい、その取り組みを教職員全員で支えあう風土を醸成する。

⑦教育公務員としての自覚

地方公務員法、教育公務員特例法等の各法令を遵守し、全体の奉仕者としての常に良識ある行動をとり、生徒の安心・安全を第一とした教育活動の徹底を図る。

⑧体罰、不適切な指導、暴言等の根絶

服務事故防止研修を行い、子どもの人権を大切にした指導を徹底し、不適切な指導や体罰の根絶に向けて教職員の意識啓発を図る。